

第79回国民スポーツ大会冬季大会  
スケート競技会・アイスホッケー競技会

我らかく戦う

期 日 令和7年1月26日(日)～2月5日(水)  
会 場 岡山県岡山市・倉敷市／群馬県渋川市

公益財団法人 北海道スポーツ協会

競技名	種別	評価	予想順位・得点	戦いの展望	有望選手・チーム	特記事項
スピードスケート	成年男子	5	団体1位 個人総合得点40点	長野県、三重県との争いとなる予想	久保 向希（オカモトグループ） 村上 右磨（高堂建設（株）） 菊池 健太（専修大学） 山本 悠乃（日本大学）	兄弟出場 久保 向希（オカモトグループ・成年男子） 久保 杏奈（（株）JTB・成年女子） 久保 颯大（白樺学園高等学校・少年男子）
	成年女子	5	個人総合得点44点	普段行わないシングルトラックレースとなるため厳しい戦いが予想されるが、インカレ選手のトップクラスが集まっているため、学校、実業団の枠を越えて北海道のために力を合わせて頑張りたい。	久保 杏奈（（株）JTB） 2024/25ワールドカップスピードスケート第1戦・第2戦 代表 河原 莉緒（早稲田大学） 2023年ISUジュニアワールドカップ第2戦 女子1000m2位 森野 こころ（日本体育大学） 2024年日本インカレ 女子1500m優勝	連続出場 河原 莉緒（早稲田大学）
	少年男子	5	団体1位 個人総合得点35点	短・中距離を中心に全国的にタイムランキング上位の選手が多いため、リレーを含めて優勝を狙いたい。	日下 賢将（北海道帯広三条高等学校） 2024年ジュニアワールドカップ 代表 久保 颯大（白樺学園高等学校） 2024年全国高校選抜 男子1000m2位／男子1500m3位 軍司 冬馬（白樺学園高等学校） 2024年全国高校選抜 男子500m優勝	
	少年女子	5	団体得点8点 個人総合得点60点	普段行わないシングルトラックレースとなるため厳しい戦いが予想されるが、ジュニア世代のトップクラスが集まっているため、すべての種目で上位を目指したい。学校の枠を越えて北海道のために力を合わせて頑張りたい。	笹刈 和花（北海道帯広南商業高等学校） 2024年ジュニアワールドカップ 代表 奥秋 静子（北海道帯広三条高等学校） 2024年ジュニアワールドカップ 女子500m優勝 小島 楓（北海道帯広三条高等学校） 江原道ユースオリンピック2024 代表	連続出場 小島 楓（北海道帯広三条高等学校） 山田 怜歩（北海道帯広三条高等学校） 今井 柊嘉（北海道帯広農業高等学校） 奥秋 静子（北海道帯広三条高等学校） 笹刈 和花（北海道帯広南商業高等学校）
ショートトラック	少年男子	3		先日のノービスカップでは予選通過をするなど、本州勢を相手に健闘できる力を持っているため、今回の国スポでは高校生相手にどこまでできるか期待したい。国スポ初出場ではあるが、上位のラウンドに出場できるよう全力を尽くす。	島田 創史（札幌市立向陵中学校） 第29回北海道ショートトラック大会 男子500m・1000m優勝	
	少年女子	3		先日のノービスカップでは予選通過をするなど、本州勢を相手に健闘できる力を持っているため、今回の国スポでは高校生相手にどこまでできるか期待したい。国スポ初出場ではあるが、持ち前のスタートダッシュで上位のラウンドに出場できるよう全力を尽くす。	濱田 ひまり（札幌市立真駒内曙中学校） 第29回北海道ショートトラック大会 女子500m・1000m優勝	
フィギュアスケート	成年男子	3	団体8位	ショートプログラムを確実に滑りきることができれば2人ともフリーに進める実力を持っている。来年度の国スポ出場枠を確保するため、団体8位入賞を目指す。		坪井 聖弥（苫小牧市役所） 5年連続出場
	成年女子	3	団体8位	来年度の国スポ出場枠を確保するため、団体8位入賞を目指す。	木南 沙良（早稲田大学） 中本 有咲（山梨学院大学）	
	少年男子	3	団体8位	まずは2人ともフリーを目指す。武田結仁選手（苫小牧市立苫小牧東中学校）は初出場なので、雰囲気呑まれないように演技に集中する。西本那音選手（北海道芽室高等学校）は2回目の出場になるので、落ち着いて演技してほしい。2人ともミスなく演技し、シード権獲得を目指す。	武田 結仁（苫小牧市立苫小牧東中学校） 西本 那音（北海道芽室高等学校）	
	少年女子	3	団体7位	2人ともフリーを滑ることができると今年も入賞の可能性が高い。昨年度は初めての国スポ参加が地元開催だった2人。今年も安定した演技を期待したい。	岩本 愛子（駒澤大学附属苫小牧高等学校） 加藤 杏望（札幌第一高等学校）	
アイスホッケー	成年男子	5	団体1位・得点40点	今年のチーム構成は、攻撃陣は道内の社会人リーグで活躍している経験豊富な中堅を起用した構成になり、攻撃と守備を中心にバランスを考えた構成にした。ベテランDFと若手DFの組み合わせを作り、平均年齢が若干下がったが、バランスの取れたチーム構成となった。北海道の戦略としては、毎年同様、守りを重点にゲームプランを考え、攻守の展開を見極めれる経験豊富なFW陣で守りから攻撃への速い展開をして、得点を取り、勝ちに繋げていきます。このチームで何を行うべきか理解をしている事が大きな強みになっているチームです。	鈴木 雄大（DYNAX・（同）協和警備） 徳田 滉也（DYNAX・（株）ダイナックス） 芳賀 陽介（釧路厚生社・王子コンテナ（株）釧路工場） 阿部 魁（日本製鉄室蘭・新和産業（株）） 山口 連（日本製鉄室蘭・（株）テツゲン室蘭支店）	現在8連覇中（連続記録更新中）
	少年男子	5	団体1位・得点40点	全試合において、無失点・10得点以上を目標に優勝を目指します。	中谷 采士郎（駒澤大学附属苫小牧高等学校） 工藤 授（駒澤大学附属苫小牧高等学校）	第77回全道高校アイスホッケー大会 1位 駒澤大学附属苫小牧高等学校 2位 武修館高等学校 3位 北海道清水高等学校 国スポ22連覇を目指します。